

# <平成21年度 「土木の日の集い」が開催されました>

「土木の日」は現在の土木学会の前身にあたる工学会の創立日である明治12年11月18日、また、「土木」の文字を分解すると「土=十一」、「木=十八」となることにちなみ定められたもので、この日にあわせて土木のイメージアップと理解を深めていただくことを目的として、全国各地で様々なイベントが実施されております。

本県においても栃木県魅力ある建設事業推進協議会（CCIとちぎ）、土木学会関東支部栃木会の共催で「土木の日の集い」を行っており、平成21年度は以下のようなテーマ・内容にて開催いたしました。

## 概 要

### ○日 時

平成21年11月27日（金） 午後1時00分から午後3時10分まで

### ○会 場

ホテルニューイタヤ（3階：天平の間）

### ○参加者

一般県民、建設関連学科に学ぶ学生、建設業関係者、学会関係者、行政関係者 等

### ○テーマ

「魅力ある建設産業を目指して～環境にやさしい建設事業～」

### ○内 容

#### ①基調講演 I 「社会資本整備の意義と重要性について考える」

・講師 財団法人ダム水源地環境整備センター 技術参与 高橋 定雄

#### ②選奨土木遺産認定書授賞式

・旧須花隧道（栃木県佐野市～足利市）

### <開会の挨拶>



## ①基調講演 I 「社会資本整備の意義と重要性について考える」

・講師 財団法人ダム水源地環境整備センター 技術参与 高橋 定雄



---

## ②選奨土木遺産認定書授賞式

・旧須花隧道（栃木県佐野市～足利市）



<旧須花隧道>

# 平成21年度 「土木の日」の集い

## ごあいさつ

栃木県魅力ある建設事業推進協議会長  
栃木県県土整備部長 池田 猛

本日は、「土木の日」を記念して、土木学会関東支部栃木会と栃木県魅力ある建設事業推進協議会（CCIとちぎ）の共催により、「土木の日」の集いを開催いたします。

まず、最初に行われる土木学会選奨土木遺産認定授賞式では、今年度、新たに土木遺産に認定された「旧須花隧道」の関係者様に認定書が授与されます。「旧須花隧道」は、初代（素掘り）が明治22年に、2代目（煉瓦造）が大正6年に建造された隧道で、「素掘り」・「煉瓦造」・「RC造」と構造の異なる3本の隧道が並存し、希少性に富んでいること、そして、それらの構造物から、地域開発への先人の熱い思いが伝わってくるとの理由から、土木遺産に認定されたものです。



また、続いて行われる講演会では、(財)ダム水源地環境整備センター 技術参与 高橋定雄氏を講師に招き、御講演をとおして、公共事業の正しい役割を再認識し、地域住民の安全・安心な暮らしを守るための社会資本整備の重要性と、それに携わる者としての責務について、会場の皆さま方と一緒に、再考する機会としたいと考えております。

昨今の公共事業を取り巻く情勢は、あらゆる面で大きな変革の時期にあり、私たちには、これまで以上に説明責任を尽すことが求められています。

当協議会といたしましても、社会資本整備を支える土木建築事業の重要性や魅力、そこに従事する私たちの誇り・熱意などを繰り返し伝えることにより、「土木建築の真の姿」を正しく理解していただけるよう今後とも積極的に活動を展開して参りますので、よろしくお願いいたします。

〈 会 場 〉 ホテルニューイタヤ

〈 日 程 〉 平成21年11月27日（金）

13:00 開会・主催者挨拶

13:05 土木学会選奨土木遺産認定授賞式

13:30 休憩

13:40 基調講演

15:10 閉会

〈 主 催 〉 栃木県魅力ある建設事業推進協議会  
土木学会関東支部栃木会

高橋 定雄 (たかはし さだお) 氏

〔(財)ダム水源地環境整備センター 技術参与〕

## 社会資本整備の意義と重要性を考える

- ① 公共投資額は本当に過大なのか？
- ② 無駄な公共投資が多いという批判
- ③ 公共事業の役割は、インフラ整備にとどまらない
- ④ 豊かな未来を切り開くために！

### (出身)

神奈川県 横浜市 (1949年生まれ)

### (主な経歴)

昭和48年中央大学理工学部土木工学科卒業、同年建設省(現国土交通省)入省、主として河川の技術畑の仕事に従事、平成20年国土交通省退官。

### (主な著書)

『いわれなき公共事業批判を糾す』(建設人社)

# 平成21年度選奨土木遺産に『旧須花隧道』が認定されました！

## 1. 土木学会選奨土木遺産の趣旨及び内容

土木学会では、土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木建造物の保存に資することを目的として、土木学会選奨土木遺産の認定制度を平成12年度に設立しました。

選考方法は、土木学会選奨土木遺産選考委員会により、「日本の近代土木遺産—現存する重要な土木建造物 2800 選」（土木史研究委員会編、土木学会発行）のリストを中心に技術的・デザインの優れたものやエピソードが豊富な建造物などを「選奨土木遺産」として認定表彰しています。

今年度、本県からは佐野市と足利市とを結ぶ一般県道飛駒足利線の須花坂に、並んで位置している3本の隧道の内、初代と二代目の隧道が認定されました。

## 2. 「旧須花隧道」の概要

- ①所在地：栃木県佐野市～足利市
- ②竣工年：〔初代〕1889（明治22）年  
〔二代目〕1917（大正6）年
- ③構造形式等：〔初代〕素掘り 117m  
〔二代目〕煉瓦造  
側壁：イギリス積、  
アーチ部：長手積  
石ポータル（地元産御影石）、81.9m
- ④管理者：〔初代〕地権者、佐野市史跡  
（平成6年に旧田沼町が指定）  
〔二代目〕栃木県



## 3. 認定理由

栃木県佐野市と足利市とを結ぶ一般県道飛駒足利線の須花坂に、3本の隧道が並んで位置しています。初代隧道は地元の有志らが寄付金を募り明治14年に着工し、竣工まで8年の歳月を要しましたが、最後まで残ったのは田島茂平ただ一人でした。工事は人力だけで行われ、内部にはその痕跡が残っています。

二代目隧道は、大正6年に栃木県が煉瓦巻隧道として築造しました。側壁はイギリス積・アーチ部は長手積で構成されており、組成文様を彩るグラデーションは積み重ねられた歳月の長さを物語っています。また、昭和54年にRC造の現道が竣工し、初代・二代目の隧道は現在使用されていません。これらの隧道は、明治・大正・昭和とそれぞれ時代を隔てて築造されたもので、隧道の構造仕様の流れを知る上で貴重であります。

初代の隧道は、地域開発に身を投じた先人の偉業を後世に伝えるなど、地域史学習の教材として貴重であり、二代目隧道は、栃木県の道路用隧道としては現存する唯一の煉瓦隧道でもあります。地元では、初代および二代目隧道を地域づくりに活用したいという機運もあり、今回選奨土木遺産に認定は、その大きな弾みになると思われれます。



【初代】



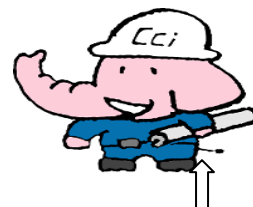
【二代目】

◇CCI協議会と土木の日◇

- ・ CCI協議会は、「栃木県魅力ある建設事業推進協議会」の略称で、CCIとは、**Charming Construction's Identity** の頭文字を冠したものです。

目的は、建設業のイメージアップと職場環境の改善を図り、建設業が担う社会基盤整備の円滑な推進を図ることにあります。事業としては、建設業のイメージアップや各種の情報提供、クリーンアップ等の社会貢献事業などを行っています。

- ・ 「土木の日」は、現在の土木学会の前身にあたる工学会の創立日である明治 12 年 11 月 18 日、また、「土木」の文字を分解すると「土=十一」、「木=十八」となることにちなみ定められたもので、この日又はその前後の日に土木のイメージアップと理解を深めていただくことを目的として、全国各地で様々なイベントが実施されています。本県でも当協議会と土木学会関東支部栃木会の共催で「土木の日」の集いを行っています。



CCIキャラクター「けんたくん」

**栃木県魅力ある建設事業推進協議会**